

親子で受け継ぐ いちかわの伝統工芸

時代とともに進化させる



行徳神輿

中臺 洋さん

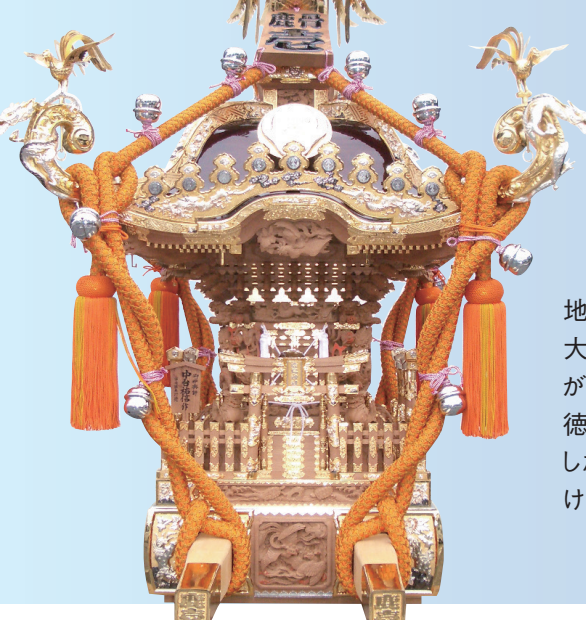
父から受け継いだ神輿作りの思いや技は変えず、今の時代の人に神輿の良さを分かってもらえるよう、時代とともに進化させることが、本当の意味で次の世代に伝統を継承するということだと思います。神輿に対する人びとの認識も変わってきているので、神輿に詳しくない人に

も分かるよう、発注時に神輿の装具パターンをシミュレーションできるソフトを開発しました。私が営む製作所では、神輿作りの全工程を一貫して行っていますが、職人の制作現場を一般の人にも見てもらうなど、神輿や技術の良さが伝わるように努めています。



父 中臺 實さん(左)
(昭和60年度指定)

担ぎ方が違うと、神輿の形も変わってきます。担ぐ人の身になって作るということを信条として神輿を作ってきました。息子が進める神輿作りの進化を尊重しています。



行徳神輿の歴史

行徳は昔から神社仏閣が多い地域でした。そのため、伝統的な宮大工の技術が集約され、神輿作りが盛んに行われました。かつて行徳には、他に2軒の神輿店がありましたが、今では中臺さんのところだけになっています。

行徳神輿ミュージアム

培った神輿の技術などを展示しています。事前予約不要で見学できます。
月曜日～土曜日午前8時～午後5時
場 所 357-2061 中台製作所(本場21-3)
なお、中臺さんの作る神輿は、「行徳まつり」「いちかわ市民まつり」などに登場し、イベントを盛り上げています。



父から技術の継承を受けつつ



江戸つまみかんざし

穂積 裕さん

20年ほど前からつまみかんざし作りを手伝っていました。昨年ごろからは、跡を継ぐために本格的に鍛錬を重ねています。幼いころより継ぐつもりはありましたが、根を詰めて細かい作業をする両親を見て、自分にもできるのか不安を感じていました。父を超えることはなかなか難しい

と思いますが、父が培った技術を次の世代につなげていきたいと思っています。伝統的なかんざしだけではなく、髪に留めやすい金具に替えたり、日常的に使えるブローチを作ったりして、時代に合わせたものにしていこうと思っています。



父 穂積 実さん(右)
(平成3年度指定)

私たちの作る江戸つまみかんざしは、国内シェアのほとんどを占めています。しかし今後は、かんざしを作るだけでなく、息子には、彼のセンスで新しい道を見つけてもらいたいと思います。



市内で見られる江戸つまみかんざし

穂積さん親子の作る江戸つまみかんざしは、いちかわ観光・物産案内所で展示している他、道の駅いちかわやアイリンク情報コーナーで販売しています。また、市のふるさと納税の返礼品にもなっています。

市内外のイベントに参加

父・実さんとともに市内外のイベントにも参加し、実演や体験を通して江戸つまみかんざしをPRしています。



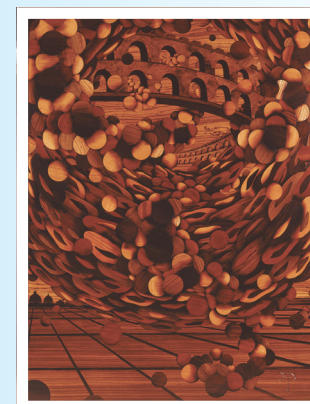
つまみかんざしは、色鮮やかな布をつまんで花びらにし、これを組み合わせて作るものです。父の実さんは特別な台座を考案し、特許を取得しました。また、つまみ細工の教室も開いています。
☎337-4506 工房 穂積



市内の千葉県指定伝統的工芸品制作者 今回の指定も合わせ、市内では6種類の工芸品で8人が指定を受けています。

木象嵌

戸島 甲喜さん
(平成8年度指定)



木象嵌は、切り抜かれた色合いの異なる木片を、地板にはめ込み、模様や絵などを作成する技法です。木目を生かしたブローチやペンダントの他、木工品の装飾を行っています。

木彫刻

藪崎 保治さん
(平成19年度指定)



神社仏閣を飾る彫刻の技法を使い、一つの木を彫って、神輿や山車などの彫像を生み出します。

屏風

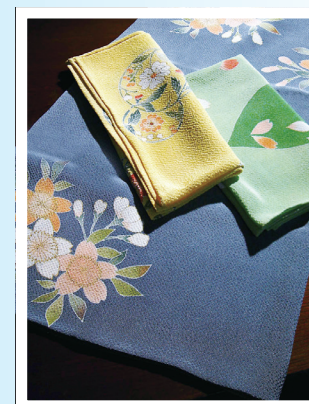
田島 義弘さん
(平成22年度指定)



屏風は室内に立てて風をさえぎったり、仕切りや装飾に用いたりする調度品です。田島さんは、下張り、裏張り、蝶番などの伝統技法を使って制作しています。

手描友禅

伊藤 知子さん
(平成27年度指定)



東京手描友禅の技法を継承しながら、現代的な図柄を取り入れるなど、新たな作品づくりにも取り組んでいます。